

10日 金曜

サムエル I



20:35 朝になると、ヨナタンは小さい子どもを連れて、ダビデと打ち合わせた時刻に野に出て行った。

20:36 そして子どもに言った。「走って行って、私が射る矢を見つけておいで。」子どもが走って行くと、ヨナタンは、その子の向こうに矢を放った。

20:37 子どもがヨナタンの放った矢のところまで行くと、ヨナタンは子どものうしろから叫んだ。「矢は、おまえより、もっと向こうではないか。」

20:38 ヨナタンは子どものうしろから、また叫んだ。「早く。急げ。立ち止まってはいけない。」その子どもは矢を拾って、主人ヨナタンのところに来た。

20:39 子どもは何も知らず、ヨナタンとダビデだけに、その意味が分かっていた。

20:40 ヨナタンは自分の弓矢を子どもに渡し、「さあ、これを町に持って行っておくれ」と言った。

20:41 子どもが行くと、ダビデは南側から出て来て地にひれ伏し、三度礼をした。二人は口づけし、抱き合って泣いた。ダビデはいつも激しく泣いた。

20:42 ヨナタンはダビデに言った。「安心して行ってください。私たち二人は、『【主】が、私とあなた、また、私の子孫とあなたの子孫との間の永遠の証人です』と言って、【主】の御名によって誓ったのです。」そして、ダビデは立ち去った。ヨナタンは町へ帰って行った。

矢によってダビデの危機を教える方法は、ダビデを守るためにヨナタンが考えた方法でしたが、周囲

に誰もいないと知るとダビデは姿を現し、ヨナタンに別れを告げました。ヨナタンはダビデのためにあらゆる手立てを講じる考えでした。それが兄弟愛です。

二人は「抱き合って泣いた」とあります。それは主から与えられた友情による思いです。男でも感情を表すことが大切なときがあるのです。そのときの思いは、後々までも二人の兄弟愛を育みます。ダビデはヨナタン亡き後、体の不自由になったヨナタンの子メフィボシエテを王のように待遇しました。またメフィボシエテは父ヨナタンから受け継いだダビデへの思いによってダビデをあくまでも信頼し力になったことが、後に記されています。

互いの愛を表すことは主のすばらしいみわざのために、大きな力となるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

